

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年九月度 入選句（投稿総数千八百七十一句・小中学投句数千百八十三句）

特選

選者 説田 祐子

たくさんの思い出でできた日やけあと 大垣市 羽田 隼 大(小三)

暑かった夏も終わり、ふと自分の姿を鏡で見たのでしょうか。顔も体も手足も日焼けして黒くなっていたでしょう。「あーこれは外でいっぱい遊んだからだ。」「これは、プールで泳いだ後だ。」作者はそんな夏の思い出がよみ返ってきたのでしょうか。思い出は新しい道へのスタートです。自分の足跡をふり返ることができる作者は二期もまた新しいことに挑戦できるでしょう。応援しなくなる俳句です。

ねむい朝ひまわりを見てしゃんとする 大垣市 西脇 陸人(小四)

朝、起きたものまだめがはつきり覚えていない。作者はそんなとき大きなひまわりを見たのでしょうか。おそらく作者の背よりも高く茎も太く、まっ直に伸び、しかも朝の光を浴びて輝いていたのでしょうか。そんなひまわりを目の前に見て、作者は思わず背すじが「しゃん」として、「今日もがんばるぞ」と思ったのではないのでしょうか。ひまわりを見て今の自分との関わりを詠んだよい俳句です。

家族がね笑顔になれるくりごはん 大垣市 堤 穂乃香(小五)

栗のおいしい季節になりました。その栗を栗ご飯にして家族みんな揃って食べる。いいことです。ね。そのことを作者は「家族でね」と読者に話しかけるように書き出し「笑顔になれる」と続いています。栗ご飯がおいしかったとかうれしかったとかは書いていませんが、読者には、栗ご飯の湯気と匂いの中で「おいしいね。」「また食べたいね。」「などと話していられる家族の様子も伝わってきます。ほのぼの俳句です。

秀逸

ひまわりさんはなびらならびなかよしだ 大垣市 三摩 結子(小一)

ひまわりはわたしの心てらしてる 羽島市 眞野 文甫(小六)

下じきをうちわがわりに夏の友 大垣市 清水 光(小六)

赤ちゃんにいやされてる夏休み 大垣市 佐藤 美琴(小六)

ゆつくりとせんこう花火しずんでく 大垣市 山木田 博樹(小六)

試合して暑さ相手に一本負け 大垣市 臼井 莉菜(小六)

ひまわりは光を集めそめている 大垣市 西脇 理彩莉(小五)

あさがおははやおきだけどすぐひるね 大垣市 近澤 倫晃(小五)

金魚がね朝がきたよとおどってる 大垣市 河合 宏太(小五)

あぶらぜみ野球の応援してくれ 大垣市 藤井 港司(小五)

スーパーで買ってくれよとサンマの目 大垣市 安田 匡宏(小四)

入選

旅行から帰ってきたらセミかんげい 大垣市 金谷 莉奈(小六)
 せみの声私の耳に突きささる 大垣市 安田 絢賀(小六)
 友達も運動会はてきになる 大垣市 村おりょうや(小四)
 カプトむし勉強中にしのびあし 大垣市 木崎 万葉(小五)
 にじが出た私の心も晴れてくる 大垣市 田中 志帆(小五)
 ゆうやけだしずむたいようもえたぎる 大垣市 瀧川 日雅(小五)
 水泳のつかれが残る朝の道 大垣市 青山 佑子(小五)
 ベッドまでかえるの声がついてくる 大垣市 濱崎 友希(小五)
 ゆれる葉に落ちずにふんばる子かまきり 大垣市 古田 晏寿(小五)

入選

飛行機に乗ってつきぬけいわし雲 大垣市 木村 ひな胡(小六)
 ひまわりさんいもうといっしよはしやいでる 愛知県岩倉市 池戸 惺(小一)
 ひまわりはおひさまみたいわらってる 大垣市 西脇 希海(五才)
 しんかんせんひまわりを見てはしってる 安八郡輪之内町宮田 悠生(小二)
 おばあちゃんいっしよに花火みて笑う 大垣市 川股 叶恵(小六)
 暑さ飛ぶ北球場にホームラン 大垣市 森 喬 亮(小六)
 ひまわりとぼくとどつちがかおでかい 大垣市 川瀬 雄一郎(小二)
 お月さま空からみはるパトロール 大垣市 志知 夕里菜(小四)
 風がふきどんぐりばくだんふってくる 大垣市 堀家 菜々子(小四)

選者吟

ひまわりに微笑返し親子連れ

祐子